

第6回 尼崎市都市計画審議会公園緑地分科会 会議録

日 時 : 令和5年9月19日(火) 13:30~15:00

議事

○素案の審議

委員 資料1別紙1, 2について。俯瞰図については公園の特色を文章として付け加え、「○○の大井戸公園」のようなイメージだったと思う。バラがあったり、公園の中の道の形であったり、球場があったりと見ただけでわかるように工夫しているが、例えば、元浜緑地にアジサイを加えたり、武庫川はサクラのピンクやクロマツを増やしたりなど、尼崎らしい形をもっと強調したらどうか。字を増やすとわかりにくいので絵で表現して字で補うといい。

もう一つ、周りの絵は生物多様性や農業・栽培が書かれているが、今回の考え方を示すためには非常に大事なとこだと思う。みどり全部の計画なので公園街路樹計画に見えてしまうのは避けたい。住宅の緑、工場の緑、商業施設の緑や、河川、海、農地など全部含めた計画ですよということを伝えたい。そういったイメージが周りの丸の絵の環境保全などからわかるようにしたい。

具体的には、本編3ページに「みどりの効果と機能」を書いているが、「景観」がないようにすべての項目が別紙1にあるわけではない。これからの景観は公共だけでなく、民間施設の緑化や工場の緑化、家庭の緑化などで作っていくことが尼崎市の中心なると思う。なので、景観という丸を作って、その絵は公園ではない何かにする。

遊びにぎわいでサッカーボールの絵になっているが、これは遊びだけにしてにぎわいはカフェやキッチンカーなどがみどりにあったらいいようなデザインがいい。地域コミュニティに車いすの絵があるが、これも福祉で特出ししたほうがいい。あと、防災・減災がないのが気になる。

せっかくこれだけ大きな緑の計画を作っているなのでそれが全部丸で説明できて、しかも公園と街路樹だけじゃないイメージにするとわかりやすくなる。

事務局 本編3ページの考え方がみどりの機能とっており整理しているので、これを明確にすべきではないかという話だと思う。3ページの方を整理したうえで俯瞰図の方にどう集約したかという整理の仕方が大事である。

委員 みどりのネットワーク図の6地区境界について。凡例のところに「6地区境界エリア」とあるが、エリアといふところの下の黄色、青、みどりの囲っているところをエリアと言っているが、境界エリアというのはこの境目のところがエリアなのか。線だけなら「境界エリア」の「エリア」はいらない。

事務局 「境界エリア」から「エリア」を削除する。
前回の分科会で6地区の境界線を入れたほうがいいという意見で入れたが、他の線と重なるので点線で示しているが、直線部分が少ないので苦慮している。

- 事務局 デザインについて、例えば黄色い線で表示するだけで違うし、必ずしも点線がわかりやすいとは限らないので工夫のしようがある。小さい公園が緑の点になっているので現数にこだわる必要もないと思う。
- 委員 各エリアの方針のところを尼崎 21 世紀の森構想エリアのところを修正していただいた。森の中央緑地の拠点と、43 号線以南のエリアが 21 世紀の森構想のエリアになるが、「水と緑豊かな自然環境の創出による環境共生型のまちづくり。」という文言にしたが、これは 21 世紀の森構想の文言から取った。拠点の方は、「尼崎 21 世紀の森を活用した自然との共生のまちづくりの拠点。」各エリアの方針のところもふさわしいかどうかを、委員の皆さんにも見ていただきたい。
- 委員 表紙のテーマの「みんなで識り」の識りのところだけルビがふってあり、創り、守りのところはふっていない。この計画は様々な背景の方が見て、子どもも見るので、せめて表紙だけでも創りも守りもルビを入れたほうがいい。
- 事務局 表紙のルビの追加に合わせて緑の基本計画の文字も消す。計画の位置付けのところを緑の基本計画ですと書いていたらいい。
- 委員 背表紙はつくのか。背表紙がないと立てたとき何かわからなくなる。
- 事務局 50 ページほどなので背表紙は厳しいかもしれない。制度概要などを別冊資料編に持っていき本当に言いたいところを明確にしたいので、そういう観点からするともう数ページ薄くなるかもしれない。
- 委員 ネットワークの保全創出の図の関係性をもっと出したほうがいい。尼崎市は、やはり河川のみどりが一番大きい。それが骨格にある。大体の都市は真ん中に骨格を作りたい。例えば大阪市だったら上町台地、宝塚市なら真ん中の武庫川、伊丹市なら緑道があってそれを基にしてみたいというところから入るが、尼崎市は周りがしっかりしている。だからこの周りをもっときちんと濃い緑で書いて、ここは縦に繋がりがすごい存在感があってしかも使いやすいということをまず言う。周りにしっかりとした伝統的なみどりがあって、真ん中の運河沿いに新しい骨格を作りましょうというのが尼崎市のみどりの政策の大基本方針かなという気がする。みどりがかけている内陸部の方に大きな拠点公園があるので、それをしっかりと特色づけして、縦の川の緑と横の街路樹でどうつなげていくかという形をわかるようにしたらいい。街路樹はあるだけではなくて、横を繋ぐ、周りの大きな緑と真ん中の大きな公園を繋いでいくためにある。拠点公園はあまりみどりが少ないところにポンと置いてそういった都市の中の緑量を増していく。街のエリアは、大きな川沿い運河沿いは今ある緑のよさを享受する形ではあるが、JR や阪神尼崎の駅前の集合施設では、エリアで何か開発があると網羅的に関係性がわかるのではないか。それぞれすごさや大事さがわかる繋げ方をしたらよい。
- こう変わってきてここが大事、河川が大事ということを説明する章があってもいいが、なかったらこの図で、これがすごくて、ここから中にどう入れていくかってことを表現したほうがいい。

- 事務局 ネットワーク図の説明を 44 ページに記載している。東西両端に南北に流れる都市河川。この水辺に加え市内に張り巡らされた道路の街路樹を描いている。44 ページ 45 ページの整理をする。
- 委員 説明をしっかりとネットワーク図が理解しやすくなる。
- 事務局 字体や強調など、現在コラムや制度説明も同じように記載しているので、そこは工夫して本文を強調して最終的には製本していく。
- 委員 水辺のネットワークの表記はどうして矢印なのか。
- 事務局 端で途切れておらず繋がっているという意味で矢印にしたが、そこまで深い意味はない。
- 委員 実際武庫川は宝塚まで全部歩いて行け繋がっている。そういうことを示しているということではどうか。
- 事務局 そうである。
- 委員 やはり小田南公園の阪神タイガースが来るゾーンは何か取組方針を出すべきではないか。他の分科会から見てワクワクするようなものにして欲しい。当面ワクワクするのは小田南公園のような気がする。こういう公園を目指すことを取組方針の中で言ってほしい。
- 事務局 取組方針の中でそれを含めるといえるのか漠然とした書き方なので、具体的に小田南公園のところも事業が進んでいるので表現を考える。
- 委員 小田南公園などのところに同じように赤の四角の取組方針があり、球団誘致のにぎわいづくりがあるかもしれないし、スポーツ健康づくりのまちづくりとかそういうことが記載されるかもしれない。
- 事務局 小田南公園整備はこの分科会ができる前に都計審に意見を聞いて基本方針を作っているの、そのニュアンスを盛り込んだほうがいい。
- 事務局 小田南公園だけではなくて大物公園や大物川緑地など周辺の緑を使ってという表現にしているので、そこがわかるように取り組み方針に入れる。
- 委員 別紙 1 に農業・栽培とあるが意味が分からない。防災がないとの指摘があったが、昨年ぐらいから防災協力農地の登録がされている。この部分から農業と防災を合わせてみてはどうか。
- 委員 本編の 3 ページのみどりの効果と機能で健康・福祉、にぎわいとあるが、これを並べた方がいいのではないかという話である。農業・栽培が生産という言葉になる。
- 委員 生産もわかりやすい言葉に置き換えてもいいかもしれない。私はこの 3 ページの機能を全部入れたほうがいいのではということも申し上げたが、事務局からはある程度まとめて表現するかもしれないという回答があったのでどちらになるかちょっとやりながら考えるということである。組み合わせると尼崎らしさが出るということかもしれない。農業と防災を組み合わせるのがいいかもしれないし、ゆとりと子育て支援、環境と子育てなど組み合わせると、これからのあり方を表現できるかもしれない。そのままバラバラでやったほうがいいのか、尼崎らしさで組み合わせるのか二つの可能性がある。

- 委員 様々なところが防災と関わりがあるが、農業のところは特にそれを重視して書くというのも一つ。尼崎らしいというのか土地の利用状況からしていい言葉なのかもしれない。これを網羅し、場所的な何か方向性とか複合して出てくるものである。それが複合した言葉は全然おかしくなく、この機能の効果からキーワードを引いて組み合わせると、農業・防災とするのもいい選択である。
- 今回ローカルルールづくりや機能分担の話で、非常に協働の方へシフトして、市役所の仕事のやり方や、市民の公園への関わり方を変えるような計画になっている。協働って言うのは簡単だが、進めるにあたり本気度合いみたいなことが見られると嬉しい。しかし、協働なのであまり具体的なことは書けない。例えば実施体制づくりをやると、どんな実施体制でやるかを、常に市民からも外の関係機関からもわかりやすいように努める。自分が関わっているのはここで、こういうふうにするということがわかるように配慮しますみたいなことが大切だと思う。多分やってみないとどれが尼崎市に合うのか、地域コミュニティに合うのかわからないから、書くのは無理である。でも、どうやってやるかということは、常に市民からもわかるようにしますというワードが入ると、協働の本気度合いがわかる。
- 委員 尼崎市は協働型提案事業で、公園緑地は佐璞丘で実施していたと思う。行政ではなく市民地域発案でよくしていくことを、すでにやっていることを PR すると本気度が伝わってくる。取組①はこれからはまずという感じになっている。これからの施策を書くことはできないが、今までの実績を書くのも一つである。
- 委員 協働をどうやるのかこの章を見たとき「協働します」だけ書いてあっても意味がない。取組①のところでも、取組体制のところにも、これから具体的に細かくやることを書く。職員にとって、すごく重要で楽しい仕事になると思う。
- 事務局 例えば尼崎市では、花のまち委員会のボランティアさんが結構多くいらっちゃって、自分の家の周りなどでそういう取組をしている。それから 21 世紀の森でもそういう形でやってきたので、そういう積み重ねがあることをしっかりここで記載しさらに発展させていく。それからもう一つは、最近 PPP の中には当然のことながら市民セクターも入っている。尼崎市は行政が作ってそれを使ってもらうだけではなく、作る段階から、事業、企業の方とか市民の方とか巻き込み、さらに発展するようなイメージ、というご指摘でよいか。
- 委員 尼崎市はそういう意味では、協働なんて言葉使わなくてももうやっていると思うし、そういう人材や実績がすでにいっぱいあるということが重々わかる。

以 上